

促進戦略#2: 多目的利用空間と変換可能な構造設計

複数の利用に、同時にまた短期・長期に適用できるように、都市システムの機能すべてを強化する。

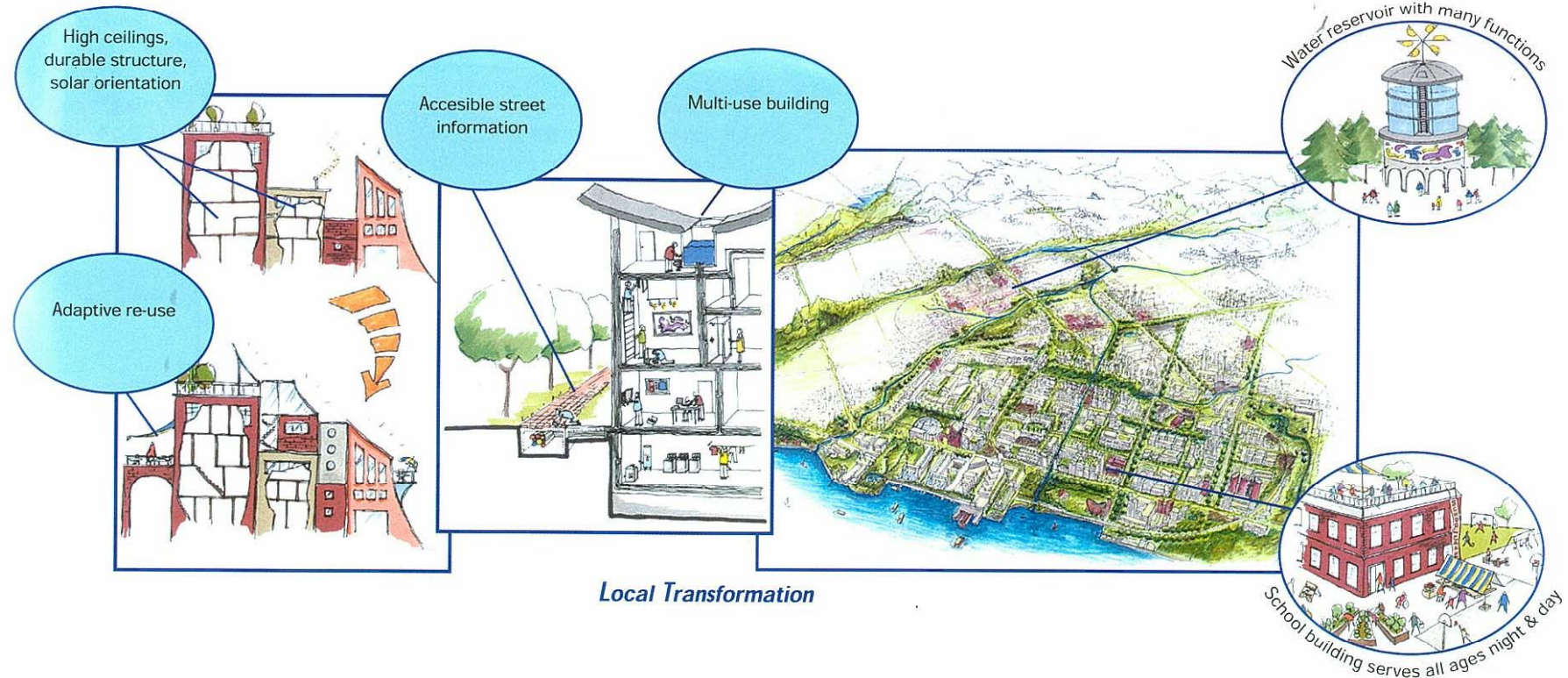
多重利用は、例えば普通の学校をフル・サービスのコミュニティ・スクールに変え、教育、健康、文化、社会活動を若者にも老人にも提供する。ビルは資源設備になり、エネルギー生成や排水を利用した農耕が建物の機能に組み込まれるだろう。都市空間は昼と夜で層化した機能を持つようになるだろう。

戦略指標の状態

- ・低温熱エネルギーネットワークに接続可能な建物(%)
- ・建物の平均寿命(年数)
- ・2つ以上の用途のために設計された都市空間または建物(%)

促進戦略#2: 多目的利用空間と変換可能な構造の設計

促進戦略#2: 多目的利用空間と変換可能な構造の設計



促進戦略#3: ショート・ループと総合インフラ・ネットワークの計画立案

都市システムのすべての部分がひとつに統合されたネットワークのノードに正確に結ばれるように流れと接続性を強化する。

ショート・ループとネットワークの重要な特徴の1つは、自己管理と共有の機能である。保存、変換、処理、生成などの機能が、1つのスケールまたはロケーションから別なところへ容易に移動する。余剰はノードからノードへ容易に配分される。例えば、個々の建物が水、電気、熱、情報の流れを地域の他の利用に供するのである。ノードとネットワークは自然界の食物連鎖の複雑さの能率を模倣するのである。このようにしてグレーレーター・バンクーバーは環境保護都市になる。

戦略指標の状態

- ・公的交通機関の駐車場から僅かな徒歩の距離にある住居(%)
- ・グリーンの公共サービス／環境に優しい産業ハブのある近隣(%)
- ・主要なサービスから僅かな徒歩距離にある住居(%)
- ・地域で処分される有機物質(1人当たりのキログラム)